

# 組合員直営型CE運営への転換による コスト削減・利用率向上とJAサポート対策



農事組合法人 花巻東部カントリーエレベーター（平成17年5月完成）



JAいわて花巻

代表理事組合長

阿部 勝昭

# I JAいわて花巻の概要

(平成30年2月末現在)

① 事業エリア 花巻市、北上市、西和賀町、遠野市、  
釜石市、大槌町(4市2町)

② 設立経過

平成10年3月1日 JAいわて花巻発足  
(花巻、石鳥谷、大迫町、東和町の4JAが合併)

平成20年5月1日 広域合併  
(花巻と北上市、西和賀、遠野地方の4JAが合併)

③ 組合員数 正組合員 22,147人  
准組合員 19,062人  
合計 41,209人

④ 役員数 理事36人、監事6人

⑤ 職員数 正職員 563人  
臨時・嘱託 99人  
パート 350人  
合計 1,012人



# I JAいわて花巻の概要

(平成30年2月末現在)

## 組合員組織・協力組織

農家組合	367組合	
女性部	2,714人、青年部	474人
主な生産部会		
水稻部会	5,763人、野菜部会	1,418人
果樹部会	586人、花き部会	242人
畜産部会	908人	

面積	340,429ha(うち耕作面積 30,261ha)
田	24,370ha
畑	5,336ha
樹園地	554ha

## 農業基盤

水稻作付面積	16,539ha
麦大豆作付面積	2,724ha
野菜作付面積	722ha

(出典:平成27年農林業センサス ほか)



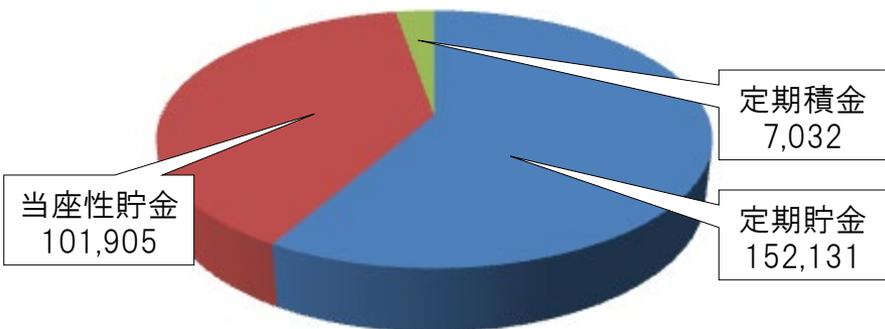
# I JAいわて花巻の概要

(平成30年2月末現在)

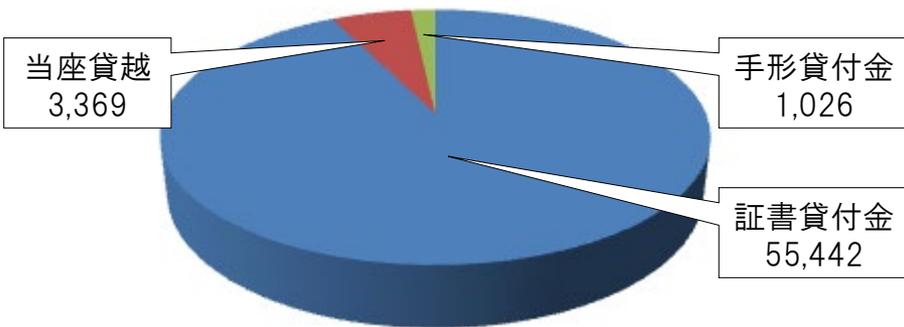
## 主要事業取扱実績

(単位:百万円、平成30年2月末現在)

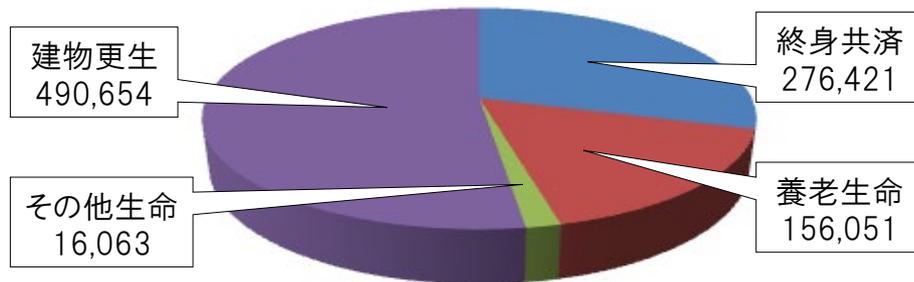
① 貯金残高 2,610億68百万円



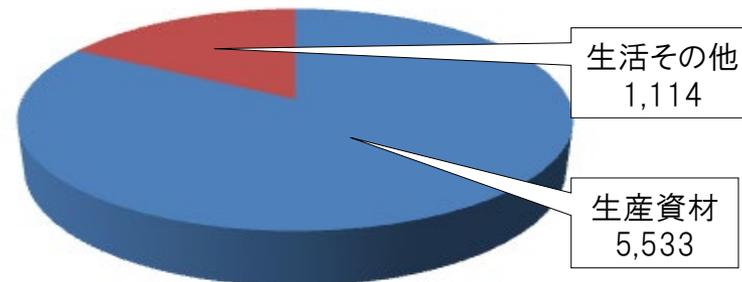
② 貸出金残高 598億37百万円



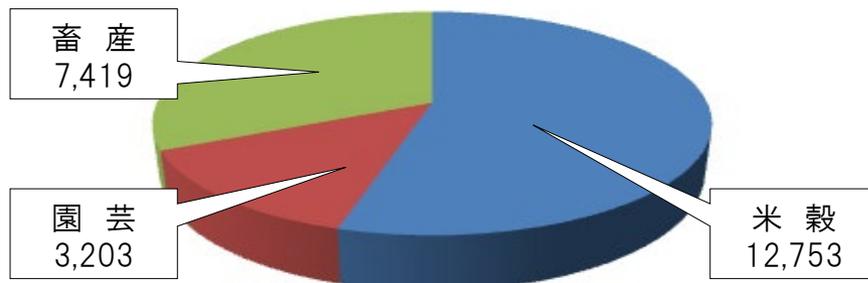
③ 長期共済保有高 9,391億89百万円



④ 購買品供給高 66億47百万円



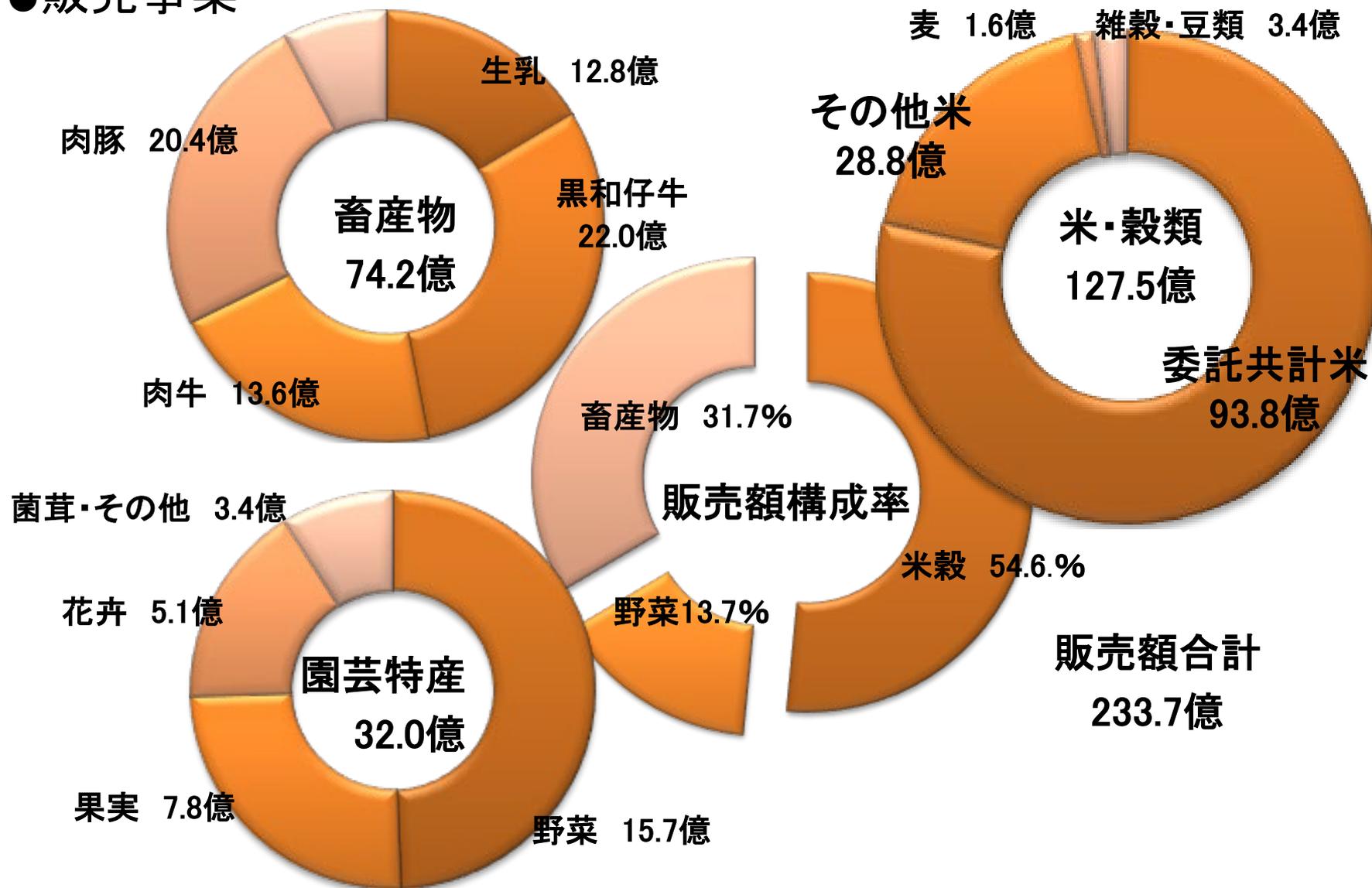
⑤ 販売品販売高 233億75百万円



# JAいわて花巻の概要

(平成29年度実績)

## ●販売事業

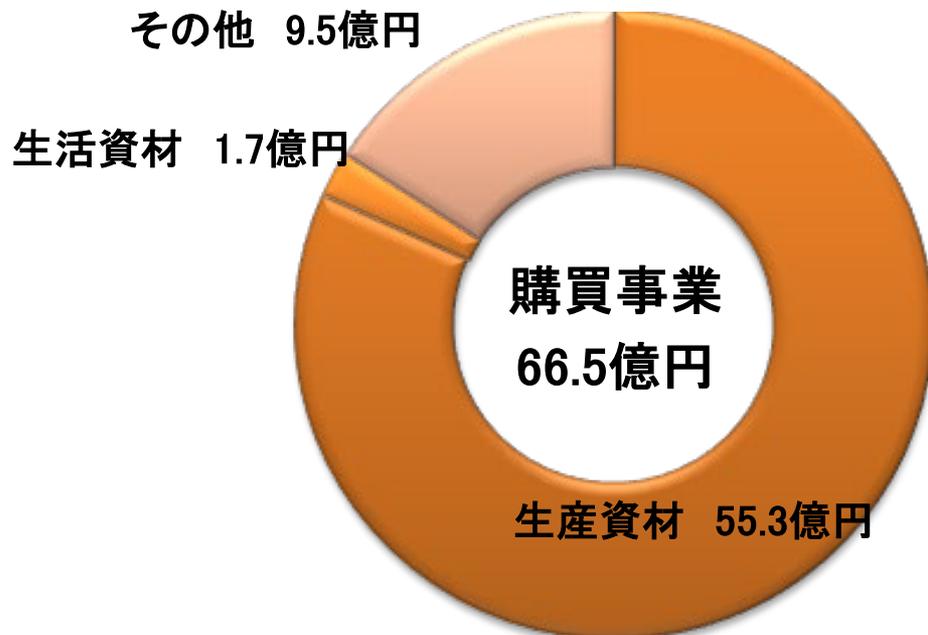


# JAいわて花巻の概要

## ●購買事業の概要

(平成29年度実績)

生産資材取扱高の内訳

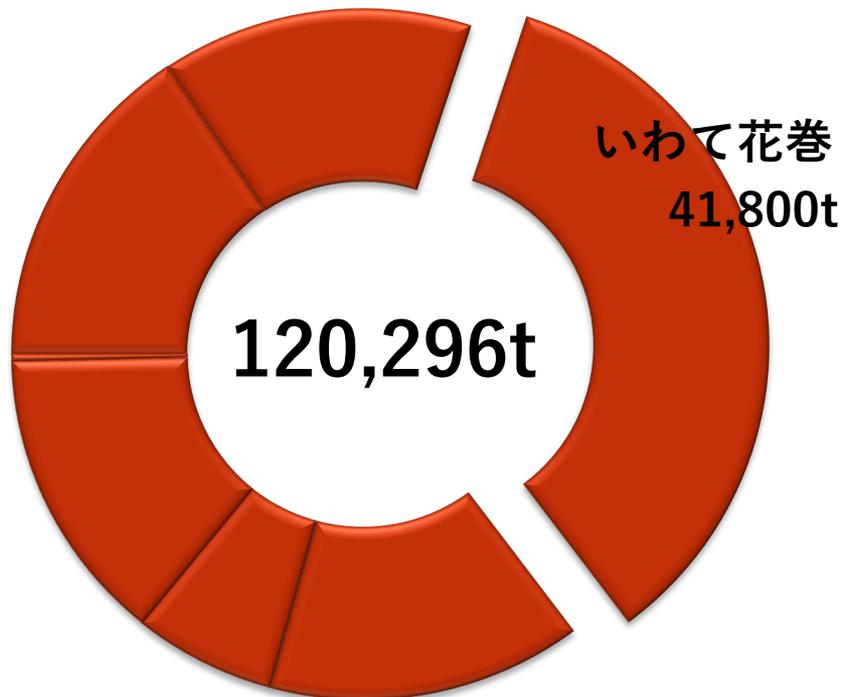


品目	取扱高(千円)
飼料	913,745
肥料	1,711,130
農薬	1,600,004
保温資材	109,199
包装資材	308,223
種苗・種子	678,233
その他	212,705
合計	5,533,239

会社名	事業内容	資本金総額	売上高
(株) JAグリーンサービス花巻	花巻葬祭センター	98,000千円	713,067千円
	ハヤチネフーズ		276,223千円
	プロ農夢花巻		445,428千円
	JAグリーンサービス花巻		7,091,838千円
(有)JAとおのライフサービス	冠婚葬祭、燃料販売、仕出し	35,000千円	1,027,177千円

## ●米販売への取り組み

H 28年産米委託共計(主食)



岩手県本部における米の集荷状況

## ● H28年産米55,343tの集荷

(加工・備蓄米含む・飼料用米含まない)

- 51,127 t (90%以上全農入庫)
- 岩手県本部の35%を担う
- H28岩手県の水稲作付面積 46,997ha
- JAいわて花巻管内の水稲作付面積 14,089ha (県内の30%)

販売を系統へ丸投げ



岩手県産米を丸抱え

# I JAいわて花巻の概要

## ◆ 基本理念

愛・農・土 — いい土・いい水・いい心 —

新鮮で安全な農畜産物を作るには「いい土」と「きれいな水」が基本です。そして、農家の愛情が加わることで消費者にも“おいしさ”が伝わるものであり、「農と共生」の心がここに生きています。JAいわて花巻は、イーハトーブの大地に根ざした、環境にやさしい農業をめざして“発進”します。



## ◆ 経営理念

- ① 組合員の豊かな暮らしをつくれます。
- ② 「農」と「共生」を基本とした地域社会をつくれます。
- ③ 経営基盤の強化と効果的・効率的な事業運営をすすめます。
- ④ 活力ある職場をつくれます。



## ◆ 基本姿勢(スローガン)

JAいわて花巻は地域から自慢されるJA、職員が自慢できるJAを目指します。



# Ⅱ JAいわて花巻のめざすもの

## 第3次中期経営計画の基本目標

(平成28年度～平成30年度)

### 農業

〔将来のめざす姿〕

消費者の信頼に応え、安全・安心な農畜産物を  
持続的・安定的に供給する地域農業を支え、組合  
員の農業所得確保・増大を支える姿

〔基本目標〕 **農業者の所得増大、農業生産の拡大** (最重点目標)

〔重点施策〕

1. 集落営農ビジョンの見直しによる地域コミュニティの活性化
2. 農業者の所得増大と農業生産の拡大
3. 新たな販売体制の構築
4. 地産池消
5. 利用施設の効率化と採算性の改善
6. 営農指導体制の構築
7. 生産資材コストの低減と農業生産の省力化・効率化



## Ⅱ JAいわて花巻のめざすもの

### くらし

〔将来のめざす姿〕

総合事業を通じて地域の生活インフラ機能の一翼を担い、協同の力で豊かでくらしやすい地域社会の実現に貢献している姿



〔基本目標〕 **地域の活性化、協同活動の活性化**

〔重点施策〕

1. くらしの活動を通じた地域コミュニティの活性化
2. 総合事業を通じた生活インフラ機能の発揮

### 組織 経営

〔将来のめざす姿〕

組合員・地域住民との結びつきを深め、食と農を基軸として地域に根ざした信頼される協同組合として存立している姿



〔基本目標〕 **結びつき強化、経営基盤強化**

〔重点施策〕

1. 結びつき強化による協同活動の活性化
2. 財務基盤強化と経営健全化



# Ⅲ 組合員組織育成とその効果

## ■ 組合員組織活動の充実

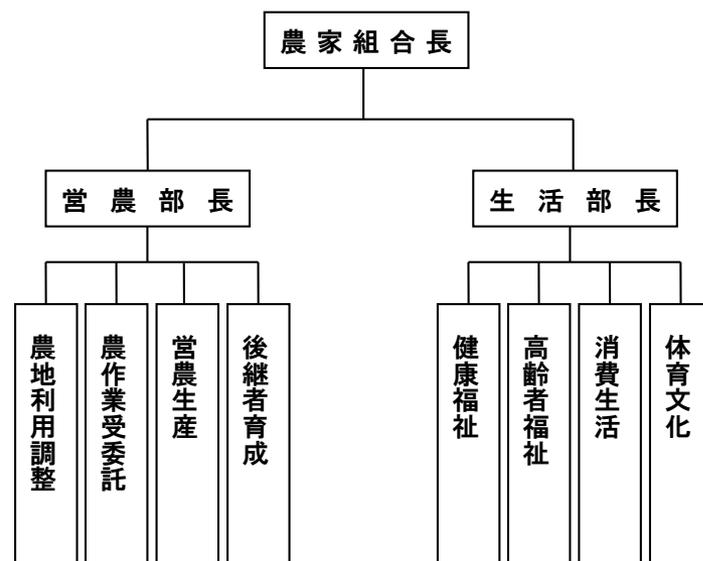
### ➤ 農家組合を組織基盤とした取り組み

- ◆ 農家組合はJA組織で一番大事な基礎組織
- ◆ 農家組合に全ての職員を配置し、家庭訪問活動や集落営農の事務支援
- ◆ 集落での活動は、組合員のコミュニティづくり
- ◆ 女性も参画し、准組合員と共に交流する
- ◆ 地域資源及び農村環境の保全管理

### ➤ 支店を核とした活動戦略

- ◆ 地域の歴史的伝統文化を尊重した支店運営
- ◆ 組合員への支店施設開放
- ◆ 支店別の組合員・地域住民との交流イベント  
(ふれあいプラン・支店まつりなど)

### 農家組合の機構図



平成29年度活動予算  
2億1000万円



## IV 利用組合による施設建設

### ■ 花巻東部カントリーエレベーター(CE)の施設建設

#### ➤ その背景には…

- 既存施設(宮野目CE、S47年建設)の老朽化
- 生産基盤の整備(圃場整備の完成)
- 集落営農ビジョンによる持続可能な集落営農の実践
- 米の品質向上と売れる米づくり、低コスト稲作の実現  
(コンタミネーション、トレーサビリティ)
- 特別栽培米の取り組み  
(集出荷の一元化、産米の均質化、生産と流通の効率化)
- 厳しいJA経営(固定資産の抑制)

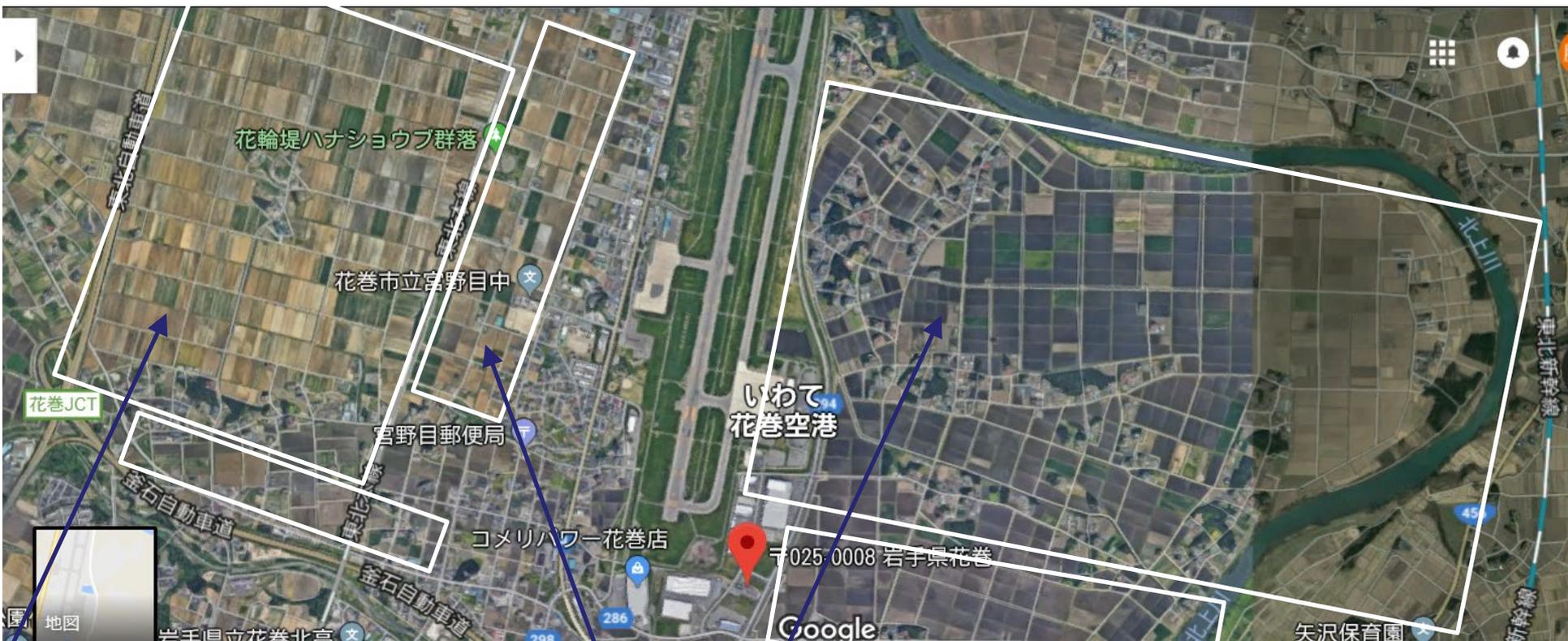
# IV 利用組合による施設建設

## ■ 建設までの経過

年 月	内 容
H14年1月	宮野目CE施設整備委員会設立総会
H14年3月	利用面積430haの申込みにより建設活動を開始
H15年4月	花巻東部CE利用組合設立
H15年10月	緊急役員会(国庫補助事業の確認、自主運営の検討)
H15年11月	集落座談会(合意形成に向けた利用申込と利用集積)
H16年5月	「農事組合法人 花巻東部CE利用組合」設立総会
H16年7月	建設委員会の立上げ
H16年10月	新築工事安全祈願祭
H17年4月	事業完了検査

# 利用組合による施設建設の背景

## 圃場整備事業により水稻生産基盤の確立



事業内容: 30aを基本とした圃場整備 233ha  
事業期間: 平成2年～平成10年

事業内容: 1haを基本とした圃場整備 65ha  
事業期間: 平成5年～平成9年

事業内容: 30a～1haを基本とした圃場整備  
39ha  
事業期間: 平成11年～平成14年

事業内容: 1haを基本とした圃場整備 367ha  
事業期間: 平成7年～平成14年

事業内容: 1haを基本とした圃場整備 106ha  
事業期間: 平成11年～平成15年

# IV 利用組合による施設建設

## ■ 事業の概要

- 事業名 16年度経営構造対策事業
- 事業実施主体 農事組合法人花巻東部カントリーエレベータ利用組合
- 設置場所 岩手県花巻市南空港1丁目7-2
- 設計施工 株式会社クボタ
- 事業費 773,800千円

補助内訳	金額
国庫交付金	367,500千円
岩手県交付金	49,283千円
花巻市交付金	79,767千円
合計	496,550千円

自己資金	金額
近代化資金（20年）	315,940千円
プロパー資金（15年）	63,118千円
合計	315,940千円

- 事業用地 JAからの賃貸

# IV 利用組合による施設建設

## ■ 施設規模

基本設計条件	米	麦
(1) 対象面積	430ha	150ha
(2) 収 量	560kg/10a(玄米)	250kg/10a(乾麦)
(3) 総処理量	2416.6t(玄米)	375t(乾麦)
(4) 実荷受日数	18日	10日
(5) 日平均荷受量	187.6t/日(生粳)	47.1t/日(生麦)
(6) 日最大荷受量	234.5t/日(生粳)	58.8t/日(生麦)
(7) 貯蔵量	3,020.8t(乾粳)	—
(8) 処理方法	プール処理	プール処理
(9) 品種名	① ひとめぼれ ② あきたこまち	ナンブコムギ

# V 利用組合による施設運営

## ■ 建設までの課題

1. 自主運営に対する農家組合員の不安
2. 利用組合長や役員の間結力をいかに強くするか
3. 地元理事の主体的な協力
4. 農家の利用率確保の重要性
5. 農家(利用者)の出資金確保
6. 行政(議員等)への積極的支援要請 (補助金申請)

# V 利用組合による施設運営

## ■ 自主運営の概要(JAとの連携)

1. 事業用地はJAから借受ける
2. CE施設のもみ貯蔵サイロを借り受け、倉庫保管業務をする
3. 利用組合は、宮野目地区の農業構造改革目標の実現に努力する
4. 利用組合は、稼働率確保のため利用促進と集荷対策を実施する
5. 集荷した原料を自主検査のうえ、乾燥・調製・貯蔵して引き渡す
6. JAの出荷指図に基づき、粳殻・調製・包装して検査を受ける
7. JAは技術指導員1名を派遣する(2年後からは派遣なし)
8. 自主検査に基づき、米穀代金の仮渡しを受け保管する
9. 米生産調整関連手続きと米穀の販売精算をする

# V 利用組合による施設運営

## ■ 作業体系の概要

### [農繁期]

役割	要員数
CEセンター長	1名
機械係	2名
荷受係	8名
事務係	1名
パート職員	2名

### [農閑期]

役割	要員数
CEセンター長	1名
作業員	2名

### [稼働日数]

○ ひとめぼれ	3週間
○ 飼料用米	1週間
○ 麦	1週間

### [ぬか利用]

○ 畜産農家	6割
○ 暗渠用	3割
○ 地元利用	1割

# V 利用組合による施設運営

## ■ 取扱実績

年度	栽培区分	荷受重量(t)	製品重量(t)	稼働率
H26	主食(ひとめぼれ)	3,024	1,955	99.1%
	飼料用米	363	274	
	小麦(ナンブコムギ)	195	145	
H27	主食(ひとめぼれ)	2,875	1,944	98.9%
	飼料用米	411	326	
	小麦(ナンブコムギ)	153	119	
H28	主食(ひとめぼれ)	2,914	2,074	104.1%
	飼料用米	462	376	
	小麦(ナンブコムギ)	271	201	
H29	主食(ひとめぼれ)	2,905	1,905	98.4%
	飼料用米	441	336	
	小麦(ナンブコムギ)	303	233	

# V 利用組合による施設運営

## ■ 花巻東部CE利用組合の収支状況

項目	H24	H25	H26	H27	H28	H29
売上高	57,941	61,967	66,814	63,208	67,465	67,977
販管費	50,866	52,777	63,086	52,257	55,700	60,347
営業利益	7,074	9,190	3,727	10,950	11,765	7,629
当期利益	7,612	8,006	4,444	10,426	10,550	7,982
利用分量配当	4,710	0	0	2,816	0	0
当期末処分利益	10,999	16,612	18,598	23,290	31,380	36,903

# V 利用組合による施設運営

## ■ 施設利用契約の概要

### 1. 目的

利用組合は、組合員の水稲粃を受入れ、乾燥・調整・貯蔵を行い、自主検査により品位認定しJAに渡す。

### 2. 使用施設及び期間

- (1) 使用量            貯蔵ビン    全基
- (2) 使用期間        毎年12月から7月までの粃貯蔵期間

### 3. 施設利用料決済期日及び支払方法

2, 458千円(税込)／毎年2月に支払う

# V 利用組合による施設運営

## ■ 土地賃貸借契約の概要

### 1. 対象物件

花巻農協の土地を利用組合が借り受ける。

[花巻市空港南一丁目7-2 宅地 5,747㎡]

### 2. 契約期間

平成17年3月から5年間とし、更新可能とする。

### 3. 賃貸料

年額2,458千円

なお、固定資産課税台帳の価格を基準とし、改定あるときは協議のうえ増減できる。

# V 利用組合による施設運営

## ■ 自主運営の効果

1. 自主運営によるCE施設建設に組合員はもとより他JAが驚嘆した
2. CEの老朽化に伴い、生産者から更新の要望があった。財務状況が厳しい現状(平成20年広域合併)のなか、自主運営の選択を指導した
3. 水田農業ビジョンの推進や農協の基礎組織である農家組合の育成を促進した
4. 集落営農や法人の育成を図り、水田農業ビジョンを実践した
5. 宮野目地区内の米集荷率100%と麦の栽培面積が増加した
6. 各行政にも積極的に情報提供し、農地集積や稲作経営の法人化を図った
7. JA経営において減価償却費負担が軽減された

# V 利用組合による施設運営

花巻東部カントリーエレベーター  
平成17年稼働



胡四王みらい種子センター  
平成27年稼働



石鳥谷広域カントリーエレベーター  
平成28年稼働



北上中央カントリーエレベーター  
平成29年稼働



# VI CE自主運営の影響(農家組合育成の効果)

## ☆ 生産法人によるCEの建設と自主運営の促進

建築年	法人名	建築費	貯蔵規模
平成16年	(農)花巻東部CE利用組合	774百万	3,000t
平成27年	(農)胡四王みらい(種子センター)	435百万	1,000t
平成28年	(農)石鳥谷広域CE利用組合	780百万	3,000t
平成29年	(農)北上中央CE利用組合	870百万	3,000t

### 負担割合

- 国庫補助 5割
- 行政補助 1割
- JA補助 1割
- 自己負担 3割
- ※ 土地はJAが取得

## ☆ JAIによるCE運営

建築年	施設名	建築費	貯蔵規模
平成8年	花巻中央CE	1,644百万	7,000t
平成12年	花巻西南CE	928百万	3,000t

## ☆ 農地中間管理事業の活用による機構集積協力金の交付実績(花巻市)

機構集積協力金	平成27年度			平成28年度		
	件数	面積(ha)	金額(百万円)	件数	面積(ha)	金額(百万円)
地域集積協力金	44	2,275	608	44	684	116
経営転換協力金	1,100	1,197	508	196	267	78
耕作者集積協力金	600	581	116	142	101	10
合計	1,744	4,053	1,232	382	1,052	204

## ■ 減価償却費の推移

(単位:千円)

項目	H25	H26	H27	H28	H29	H30
花巻東部CE	14,700	14,700	14,700	14,700	14,700	14,700
胡四王みらい	-	-	36,800	25,200	17,700	9,000
石鳥谷広域CE	-	-	-	33,500	33,500	33,500
北上中央CE	-	-	-	-	-	32,500
合計	14,700	14,700	51,500	73,400	65,900	89,700

# VI CE自主運営の影響

## ➤ CEの利用率向上

- 集荷した米は全量JAで保管する
- 転作による麦作の増加

## ➤ 米集荷200万袋運動の展開

- H24年産米 195.7万袋
- H25年産米 184.7万袋
- H26年産米 191.4万袋
- H27年産米 200.3万袋
- H28年産米 184.4万袋



- 集荷対策費として2円/kgを各農家組合に助成
- さらに、集荷目標を達成した場合に3円/kgを奨励
- 未達であっても、支店目標がクリアした場合には2円/kgを奨励

# VII 自主運営施設の課題

## ■ 今後の経営課題

1. 経年劣化による修繕費の増加
2. 麦作の利用も着実に実践することが利益向上のカギ
3. 利用高配当よりも内部留保による安定経営
4. 消費税課税事業者の認知(出資金1千万円以上)

ご清聴ありがとうございました



広域合併10周年

10<sup>th</sup>

JAいわて花巻